

## 友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わうための環境構成と援助の工夫

～互いのよさに気づき認め合える仲間づくりを通して～

八重瀬町立東風平幼稚園教諭 仲村小百合

### I テーマ設定の理由

#### 〈今日的課題〉

近年の社会において、都市化、核家族化、人間関係の希薄化、規範意識の低下等の幼児を取り巻く環境が急激に変化している。幼児においては、テレビやゲームなど一人遊びが増え、人とかかわる機会が減少し、自己抑制やコミュニケーション能力が十分に育っていないといった今日的課題につながっている。そこで幼児期には、周囲の人との信頼関係に支えられ、教師や友達から認められる体験をすることで、自己肯定感を持ち、自信を持って友達とかかわることが大切だと考えられる。

#### 〈幼稚園教育要領解説より〉

「人間関係」領域のねらいで「身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼関係をもつ」とあり、人とかかわりを深めていくことが大切であると示されている。内容（7）では、「友達のよさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。」とある。幼稚園生活において、幼児が友達と様々な感情体験や葛藤等の体験を通して、互いのよさに気づき認め合う体験を重ねることで自己肯定感が育ち自信を持つようになる。そして、一緒に活動する楽しさが増してくる。そのためには、一人一人のよさや可能性を見出し、その幼児をありのまま受け止める教師の姿勢が大切である。

#### 〈本園の幼児の実態〉

本園は、2年保育を実施している。年長組は、進級児と複数の保育園や家庭からの入園で生活体験が違う子で構成させている。気の合う友達同士、遊びや活動を楽しむ子もいるが、友達と一緒に活動が続かなかったり途中で遊びからぬけてしまったりする子がいる。また、自己主張のぶつかり合いでトラブルになったり、自分の思いや気持ちを言葉で伝えられなかったりするなどの実態が見られる。

#### 〈これまでの保育を振り返ると〉

これまで、友達と一緒に遊びが続かない子に対しては、教師が中心になって友達とつなぐ援助をしてきた。また、子ども同士の自己主張のトラブルに対しては、相手の気持ちに気付かせる援助を試みてきたが、幼児の体験や発達に応じた適切な援助になっていたのだろうか。そして、一人一人のよさを友達に伝える援助の工夫に努めていたか反省する。

#### 〈本研究において〉

一人一人の幼児理解を深めながら、互いのよさに気づき認め合える仲間づくりを通して友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わえるような環境構成や援助の工夫を探っていきたいと考え、本テーマを設定した。

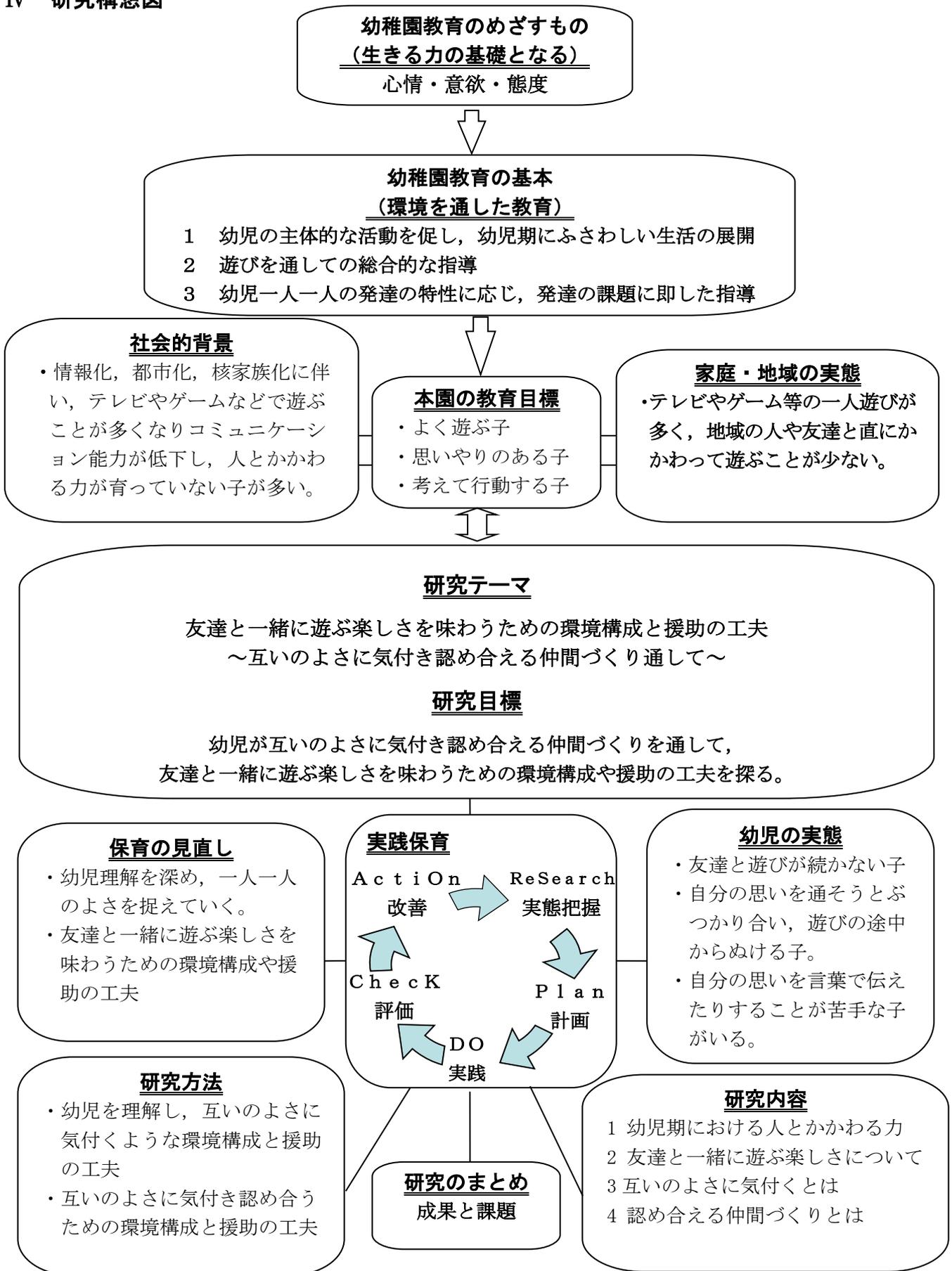
### II 研究の目標

幼児が互いのよさに気づき認め合える仲間づくりを通して、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わうための環境構成や援助の工夫を探っていきたい。

### III 研究の方法

- 1 幼児を理解し、互いのよさに気付くような環境構成と援助の工夫
- 2 互いのよさに気づき認め合うための環境構成と援助の工夫

#### IV 研究構想図



## V 研究の内容（太字は幼児，下線は教師のポイント）

### 1 幼児期における人とかかわる力

幼稚園教育要領解説では、幼児期における人とかかわる力の基礎は、「自分が保護者や周囲の人々に温かく見守られているという**安心感**から生まれる人に対する**信頼感**を持つこと、さらに、その信頼感に支えられて自分自身の生活を確立していくことによって培われる。」とある。

幼稚園生活では、まず教師との信頼関係を築いていくことが必要である。それを基盤にして、幼児は自ら周りの環境や友達とかかわり**安心して自己発揮**していく。幼児は、友達と遊ぶ中で、嬉しい、悔しい、楽しいなど**様々な感情体験や葛藤体験**を通して、**自己と他者の違いに気付く**ようになる。そして、その体験を重ねながら互いに理解し合うようになり友達と遊ぶ楽しさを感じ、**共感や思いやり**をもったり、**自己を抑制**したりしながら**自分自身を変容**させていく。そうすることで、友達関係が深まり、人とかかわる力が育っていくと考えられる。

### 2 友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わうとは

幼児は、友達と遊んだり活動したりすることを通して互いのよさや**特性に気付き**、友達関係をつくりながら、次第に人間関係が広がり深まっていく。そして、幼児は、友達との遊びを通して、**共通の目的**を見いだして、それを実現するために、**友達と工夫したり、協力したり**していく。その中で、一人では実現できないことも、友達と一緒にだと実現できることや工夫したり協力したりする楽しさや充実感を味わうようになる。このことは、一人で遊ぶよりも、**友達と一緒に遊ぶことでより遊びが豊かに楽しく展開**できることを体験し、**友達がいることの楽しさに気付いていく**ことである。

### 3 互いのよさに気付くとは

幼稚園教育要領解説では、「教師や友達と共に生活する中で、初めは『○○ちゃんは鉄棒が上手』『○○ちゃんは歌が上手』といった表面的な特性に気付いていくことから、『○○ちゃんならいい考えをもっていると思う』『気持ちのやさしい○○ちゃんならこうするだろう』など、次第に互いの心情や考え方などの特性にも**気付く**ようになり、その特性に応じてかかわるようになっていく。そして、遊びの中で互いのよさが生かされ、一緒に活動する楽しさが増してくる。」とある。幼児は、**友達と様々な心動かず出来事を共有**し、互いの感じ方や考え方、行動の仕方などに関心を寄せ、それらが行き交うことを通して、**それぞれの違いや多様性に気付いていく**ことが大切である。また、**互いが認め合う**ことで、より生活が豊かになっていく体験を重ねることも必要である。

幼児が友達のよさに気付くためには、よき理解者としての教師の存在は大きい。一人一人のよさや可能性を見だし、その幼児らしさを損なわず、ありのままを受け入れる姿勢が、幼児自身も友達のよさに気付いていくようになる。

### 4 認め合える仲間づくりとは

幼稚園生活の中で、**幼児が自己を発揮**し、教師や友達に**認められる体験を重ねる**ことで自己肯定感を持ち、**友達と自信を持ってかかわる**ようになり、**友達のよさも認められる**ようになる。そして、遊びを進めていく中で互いの考えやアイデアなどその幼児が持っているよさを受け入れていくことでより遊びが楽しくなったり充実感や満足感を味わったりしていく。そのことは、幼児同士がよい刺激を受け合い、相互にモデルになるなどして影響しながら育ち合っていくことである。そして、互いに必要な存在であると認め合い、互いを大切に思う仲間関係になっていくと考える。

教師の重要な役割の一つは、教師と幼児、さらに幼児同士の心のつながりがある温かい集団を育てることである。そのためには、教師が、幼児の心に寄り添い、その幼児のよさを認めることが大切である。どの幼児に対してもこのような姿勢で接する教師と生活する中で、幼児は互いを大切にする姿勢を身につけていく。それが、やがて心のつながりのある温かい集団をつくることにつながっていく。

## 5 環境を構成する視点 (幼稚園教育要領解説) よりまとめる。

### (1) 発達の時期に即した環境

- ① 入園当初の不安な時期は、幼児が安心して自分の好きな遊びに取り組めるように物や場を整えていく。
- ② 人とかかわりを広げ深めて行く時期は、友達と力を合わせ継続して取り組む活動ができる場の構成を工夫し、友達の刺激を受けながら自分の力を発揮し、探求心や挑戦する意欲を高めるような環境の構成をする。

### (2) 興味や欲求に応じた環境

- ① 幼児が生活の中で、葛藤、挫折などの体験をしたり、達成感を味わったり自分の力で乗り越えられるような困難といった要素も環境の中を含める。
- ② 幼児の遊びのイメージ、興味や関心の広がりを感じ取りながらイメージを実現できるような空間の在り方や遊具の配置や用具、素材の準備や配置を考慮する。
- ③ 幼児の興味や関心を大切にしながら、活動の充実に向けて幼児と共に環境を構成し、再構成し続けていく。

### (3) 生活の流れに応じた環境

- ① 幼児の前日の遊びや楽しかった経験など、翌日も継続して遊びたいという幼児の興味や意識の流れを大切に環境を構成する。

## 6 教師の援助の視点 「保育内容人間関係」濱名浩著よりまとめる。

### (1) 「友達と共感する」ための援助

- ① 一人一人の子どもが自分の思いを十分に発揮し、安心して自分のやりたいことに取り組むことができるようにする。
- ② 幼児が、自分で気の合う友達を見つけることができるように見守ったり、友達関係を紡いだりなどの援助をする。
- ③ 友達と様々な感情の交流をすることができるようにする。
- ④ 教師自身が共感的な姿勢で過ごすモデルとなる。

### (2) 「互いの思いの伝え合い、相手の思いに気付く」ための援助

- ① 相手にも思っていることや、言いたいことがあることに気づくことができるようにする。
- ② 教師は、幼児の個性や言語的発達を見ながら仲介役となるなど、互いの思いを伝え合うことができるようにする。

### (3) 「友達同士をつなぐ」ための援助

- ① よき理解者として、一人一人の子どもに愛情をもって温かい目で見守り、教師自身が一人一人のよさを認める。
- ② 友達と様々な心を動かす出来事を共有し、互いの感じ方や考え方、行動の仕方などに関心を寄せることができるようにする。
- ③ お互いの行動の仕方などの違いや多様性に気付くことができるようにする。
- ④ お互いが認め合うことで、より生活が豊かになっていく体験を重ねることができるようにする。

### (4) 「友達へのあこがれと認め合い」を育むための援助

- ① 一人一人の子どものありのままの姿を受け止め、十分に自分を発揮して過ごすことができるようにする。
- ② 一人一人の子どものよさを認め、他の子どもたちに伝える。
- ③ 一人一人の思いを受け止めながら、心のつながりのある友達関係を育てていく。

## VI 研究の実際

### 1 検証保育（1回目 12月） 「紙飛行機で一緒に遊ぼう」

#### (1) 設定理由

以前は、友達と遊ぶ中で、自分の思いを通そうとしてトラブルになり遊びが中断したり、途中でぬけたりする幼児がいた。12月に入り、紙飛行機を飛ばすようになった頃から次第に友達とかかわりながら遊ぶ姿が見られるようになってきた。

そこで、友達とかかわりながら互いのよさに気づき、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わうための環境構成と援助の工夫を考えていきたい。

#### (2) 保育のねらい

- ・自分の思いを伝えたり友達の話の聞いたりして遊びを進める楽しさを味わう。

#### (3) 検証のねらい

- ・互いのよさに気づき友達と遊ぶ楽しさを味わわせるための環境構成と援助の工夫をする。

#### (4) 検証保育の流れ

月日	検証のねらい	予想される幼児の姿	○環境構成の工夫 ★ 教師の援助	実際の幼児の姿	検証結果
12月12日(木)	友達に紙飛行機の折り方を教えてもらったりすることで友達とかかわりを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙飛行機がどこまで飛ぶのかを楽しんでいる幼児がいる。</li> <li>・友達から折り方を教えてもらう幼児がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○紙飛行機が飛ぶ距離が分かるようにひもを張る。</li> <li>★自分で、紙飛行機を折った幼児のよさを知らせ自信につなげる。V-6(4)②</li> <li>★紙飛行機がうまく折れなかったり飛ばなかったりする幼児の気持ちを受け止めてどうしたら飛ぶようになるのか一緒に考えていく。V-6-(1)④</li> <li>★折り方の上手な幼児から折り方を教えてもらえるように橋渡しする。V-6(3)③</li> <li>○友達の工夫が見られるように折り紙コーナーにテーブルを用意する。V-5(2)③</li> <li>○友達が折った紙飛行機が見れるように展示する。V-6(4)②</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひもを張ることで、目標をもつ姿がみられた。</li> <li>・紙飛行機がうまく折れなかったり飛ばなかったりして悔しがる幼児がいる。V-3</li> <li>・教える側の幼児は、折れない幼児の気持ちに気づき「ここは、こうやって折るわけさ」と、自信を持って教える姿が見られる。</li> <li>・友達が折る様子を見て「上手だね」とよさに気付く。V-3</li> <li>・作ってもらった幼児にお礼を言って、紙飛行機がどこまで飛ぶのか、期待しながら試している。V-3</li> <li>・友達の紙飛行機を見て「すごいな」「いいな」と友達の工夫しているよさに気付く。V-3</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙飛行機を折れない幼児の気持ちを受け止め幼児同士がかかわりを持つよう援助することでかかわりがもてた。</li> <li>・折ってくれた幼児の内面のよさに、気付いている。</li> </ul>
12月13日(金)	友達と一緒に遊びを楽しく進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙飛行機を友達と一緒にひもまで飛ばすことを楽しんでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★0男の「ひもに当たったら百点にしよう」のアイデアを受け止め周りの友達に伝える。V-6(3)① V-6(4)②</li> <li>○素材や材料を準備する。V-5(2)②</li> <li>★帰りの会で0男のアイデアを紹介し、遊びがより楽しくなったことをみんなに知らせる。V-6(4)②</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひもまで紙飛行機を飛ばすことを楽しんでいる。</li> <li>・0男のアイデアに共感した幼児が協力して一緒に的当てを作る姿が見られた。V-2</li> <li>・0男のアイデアを紹介することで「すごいね」という声が聞かれ、0男のよさに気付いている様子が見られた。V-3</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の幼児が0男のアイデアに関心を寄せ協力して遊びを楽しんでいる。</li> <li>・紹介することでみんなが0男のよさに気付いた。</li> </ul>

<p>12月18日(火)</p> <p>本時</p>	<p>友達のよさに気づきながら遊びを楽しむ。</p>	<p>・友達を誘って紙飛行機大会に参加する。</p> <p>・友達の工夫しているところを認めたり真似たりする。</p>	<p>○紙飛行機を上手に飛ばす幼児が増えてきたので、紙飛行機大会を行う。</p> <p>★自分たちで遊びを進めているので見守る。</p> <p>★的に当たらない幼児を誘いうまく当たる幼児に教えてもらえるようにする。</p> <p>★教師も参加して楽しさを共感する。</p> <p>○当たった点数が分かるように得点表を作る。</p> <p>V-5(2)③</p> <p>★的に当てるために何度も挑戦したり折り方を工夫している姿を認め励ましたりしていく。V-6(3)①</p> <p>★帰りの会で的によく当たる幼児の工夫を知らせる。</p>	<p>・的にあてをする幼児が増えてきた。</p> <p>・友達を誘って大会に参加する子が増えてきた。</p> <p>・的に当って喜ぶ幼児、当たらないで、悔しがっている幼児がいる。</p> <p>V-3</p> <p>・得点表を見ながら、点数が高い友達に「おまえすごい」と話し、どうしたら的に当たるのか工夫しているところを聞いたり折り方を教えてもらったりする姿が見られた。V-3</p> <p>・互いに応援したり、的に当たると一緒に喜んだりする姿が見られた。</p>	<p>・折り方を教えてもらった幼児のよさに気づいたり何度も挑戦している幼児を応援したりする姿が見られる。</p> <p>・友達のよさに気づきながら遊んでいる。</p>
<p><b>【考察】</b></p> <p>○紙飛行機の折り方を友達に教えてもらったことで、折り方が分かり、友達の優しさやよく飛ぶための飛行機の折り方にも気づき、更に、遊びが楽しくなっていたと考えられる(V-3)。</p> <p>○友達の折り方が見える様にテーブルを用意することで、友達の作り方や飛ばし方がわかったと考えられる(V-2)。</p> <p>○友達のアイデアを伝えたり出来上がった紙飛行機を飾る場を設置したことで、友達のよさや工夫を知ったり、自分も同じように作りたいと意欲を持つようになったと考えられる(V-3)。</p> <p><b>【課題】</b> ○幼児の興味関心を探りながら、必要感や要求に応じて共に環境を構成する。</p>					

## 2 検証保育（2回目1月） 友達と一緒に遊びを楽しむ～

### (1) 設定理由

前回の検証保育から、幼児の興味や関心を探りながら必要感や要求に応じて環境構成することが課題であった。今回の検証保育では、友達と遊びを進めていく中で、互いのよさに気づき認め合える仲間づくりをするための環境構成と援助の工夫のあり方を考えていきたい。

### (2) 保育のねらい

- 一人一人が遊びの充実を味わい、互いのよさに気づき認め合いながら遊びを進めていこうとする。

### (3) 検証のねらい

- 一人一人の幼児の興味関心を捉え必要感に応じた環境構成の工夫を行う。
- 幼児が互いのよさに気づき認め合いながら、遊びを進めさせるための援助の工夫を行う。

### (4) 検証保育の流れ

月日	検証のねらい	予想される幼児の姿	○環境構成の工夫 ★ 教師の援助	実際の幼児の姿	検証結果
<p>1月14日(火)</p>	<p>友達のアイデアや工夫していることに気づき、それを取り入れることで遊びが楽しくなる。</p>	<p>・友達に教えてもらったり自分で作ってみたいりする。</p>	<p>○必要な素材や用具を準備する。V-5(2)②</p> <p>★「いい考えだね。面白そう」と教師もこま作りを楽しむ。V-6(1)④</p> <p>★ペットボトルのキャップの穴あけは、危険なので、教師がする。</p> <p>★互いにアイデアを出し合っているなのでその姿を認め周りの幼児に知らせる。V-6(4)③ V-6(4)②</p>	<p>・S男がペットボトルのキャップを二個合わせてこまを作っている。</p> <p>・K男「すごい、おれもやりたい」とS男に教えてもらいこま作りをする。他の幼児も集まってきてS男は、自信を持って教える。</p> <p>・O男「ねえ、キャップに棒をさして指でひねっても回せるよ」</p> <p>・O男のアイデアを受け入れ作る。</p> <p>・「ほんとだ、すごいよ回るよ」と喜ぶ。V-3</p> <p>・S男「バトルしようぜ」</p>	<p>・キャップでこまを作る S男のアイデアでK男や他児も作る。</p> <p>・S男の作ったこまにO男のアイデアが加わることで、遊びが楽しくなった。</p>

			<p>★「こまが箱から落ちるね。どうしようか」と考えさせる。 V-6 (3) ③</p> <p>★帰りの会で、S男、O男がアイデアを出し合うことで遊びが楽しくなったことを話す。 V-6 (4) ②</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・O男が箱でバトル場を作る。</li> <li>・O男は、こまが箱から落ちないように箱の周りを厚紙で囲う。</li> <li>・他の幼児が「落ちない。O男すごい」と認める姿が見られる。 V-3</li> <li>・「面白かった、明日もやろうぜ」とS男がO男に話しながらO男。他児も同調する。 V-2, 4</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・S男の言葉からO男がバトル場をつくることを思いつく。</li> <li>・O男の工夫を受け入れることでより遊びが楽しくなった。 V-2</li> </ul>
<p>1月15日(水)</p>	<p>友達のよさに気づき、認める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に、挑戦する。</li> </ul>	<p>★幼児同士遊んでいる姿を見守る。</p> <p>★「O男、よく気がついたね」とO男のアイデアを認める。 V-6 (4) ①</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・O男がこまを箱の高さよりも高いところから落としても回ることに気がつく。</li> <li>・他児「すごい回るぜ」と驚き、こま回しを楽しむ。 V-3</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師がO男のよさを認めることで、他児もO男のよさに気付いている。 V-3</li> </ul>
<p>1月20日(月)</p>	<p>互いの思いを伝えながら遊びを進める。</p> <p>友達への憧れを持つ。</p>		<p>○ルームテラスに短縄を準備し友達が跳ぶ姿が見られるようにする。 V-5 (2) ③</p> <p>★O男の跳べるようになりたいという気持ちを受けとめて励ましながら援助する。 V-6 (1) ④</p> <p>★M子がO男に縄跳びを教える様子を見守る。 V-6 (4) ①</p> <p>★O男の跳べた嬉しい気持ちを共感する。また「M子がたくさん縄跳びおしえていたね」とO男を応援してくれたM子の気持ちに気付かせる。 V-6 (3) ②</p> <p>★O男のがんばりとM子が教えてくれたことをみんなに知らせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・M子が短縄を跳ぶ姿に刺激されO男も縄跳びをする。</li> <li>・O男「おれ、とべない。どんなしたら跳べるの」。 V-1</li> <li>・M子「練習したら跳べるよ」M子「手を回すわけさ、縄が下にきたら跳んで」。M子のアドバイスを聞きながら練習する。</li> <li>・実際にM子が跳ぶ姿を見せる。</li> <li>・O男「すごいな、たくさん跳べる。M子みたいにとびたい」 V-3</li> <li>・O男は、何回も練習して跳べるようになった。</li> <li>・M子「ほらとべた。よかったね」</li> <li>・O男「うん」「ありがとう」二人で縄跳びを続ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いを伝えながら遊びを進めていた。</li> <li>・M子のように短縄が跳べるようになりたいと憧れをもつようになる。</li> <li>・M子は、O男の頑張ってることを喜びO男は、M子の優しい気持ちに気づくことで互いのよさを認め合いながら遊びを楽しみ充実感を味わっている。 V-2</li> </ul>
<p>1月22日(水) 本時</p>	<p>互いのよさを認めながら遊びを進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に遊びに取り組む。</li> </ul> 	<p>★二人を励ましながら見守っていく。 V-6 (4) ①</p> <p>★二人の距離間に気付けるように言葉掛けをする。</p> <p>★二人で協力することで跳べるようになったことを伝える。</p> <p>★二人跳びができたことを周りの幼児に知らせる。 V-6 (4) ②</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・O男が跳べるようになったことで二人跳びに挑戦する。</li> <li>・M子「O男、もっとM子に寄ってきて」O男は、M子の方に寄って跳ぶようにする。</li> <li>・O男「交代で縄を回そう」縄を回す役を交代しながら練習する。そして、跳べるようになる。</li> <li>・O男「やった跳べたね」二人は、顔を見合わせて喜ぶ。 V-4</li> <li>・その後、何回も一緒に挑戦することを喜んでいる。 V-4</li> <li>・他児も二人跳びをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「二人跳びをする」という共通の目的を持ちを互いに考えを出し合って進めている。</li> <li>・O男とM子が力を合わせたことで二人跳びができたことを互いに認め合っている。 V-2 4</li> </ul>
<p><b>【考察】</b></p> <p>○こま作りでは、S男とO男の要求に応じて素材や用具を準備することで、アイデアが実現でき、それを生かすことでより遊びが楽しくなった。「明日もやろうぜ」の言葉から友達と遊ぶことは、楽しいと感じていると考えられる (V-2)。</p> <p>○O男は、紙飛行機の的当てのアイデアやこま遊びの工夫が認められた体験を重ねて、自信を持ち他の遊びにも意欲的に取り組むようになったと考えられる。そして、M子のよさにも気づき憧れをもつようになったと考えられる (V-3)。</p> <p>○O男に縄跳びを一生懸命教えてくれたM子の優しい気持ちに気付けるように、教師が言葉かけをすることで O男は、M子の気持ちを感じ、感謝のこぼれにつながったと考えられる (V-3)。</p> <p>○M子とO男は、二人跳びへと遊びが広がり、力を合わせることで跳べるようになったことを喜び合う姿から互いに認め合う仲間の姿としてとらえることができる (V-4)。</p>					
<p><b>【課題】</b> ○仲間関係がさらに深まっていけるような環境の工夫と援助を考えていく。</p>					

(5) 保育の展開（本時）日案

八重瀬町立東風平幼稚園 1月24日（金）（ゆり組） 男児15名 女児12名 計27名 担任 仲村小百合				
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>こま回しでは、ひもを巻くことに粘り強く取り組み、回せるように何度も挑戦し友達と競争することを楽しんでいる。</li> <li>縄跳びでは、跳んだ数を数えて教師や友達に跳べようになったことを知らせたり跳び方を工夫したりしている。</li> <li>踊りや恐竜ごっこでは、同じ目的を持って踊ったり戦いごっこをしたりして楽しんでいる。</li> </ul>	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人が遊びの充実を味わい、互いのよさを認め合いながら遊びを進めていこうとする。</li> </ul>	
		内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のよさに気付き、認め合う。</li> <li>・友達と一緒に遊びを進めようとする。</li> </ul>	
・予想される幼児の活動		○環境構成	★教師の援助	教育要領の視点
8:00	○登園		★一人一人と挨拶を交わしながら健康状態を視診する。	言葉 内容(6)
	・所持品の始末		★一緒に水やりをしながら、野菜の生長に気付けるような言葉かけをしていく。	人間関係 内容(3)
	・水やり			健康 内容(8)
	・うさぎの世話		○運動用具は取り出しやすい場所に置く。	環境 内容(5)
	・運動遊び		★一人一人の頑張っている姿を認め励ましていく。	健康 内容(3)(9)
	・園庭（戸外）遊び			環境 内容(7)
	・片付け			人間 内容(7)(8)
9:00	・手洗い、うがい		★インフルエンザの流行を知らせ予防のためにも手洗い、うがいの大切さを知らせていく。	表現 内容(7)
	・朝の集まり		○みんなが揃うのを待って、揃ったら話し始める。	人間 内容(6)
9:10	○好きな遊び		○自分達で遊びが進められるように遊びで使う道具や教材を準備しておく。	環境 内容(8)
	・こま回し		★自分なりに目標を持ち挑戦しようとしている姿が見られるのでそれを認め、徐々にできるようになった喜びに共感する。	言葉 内容(1)
	・縄跳び		★できるようになったことや挑戦する姿を認め周りの子に知らせ、互いのよさに気付き認められるようにしていく。	
	・フープ		○自分のイメージするものが作れるように素材や用具を準備しておく。	
	・ドーナツ屋さん		★友達と話す中で自分の気持ちや考えを出し合い取り組んでいけるようにしていく。	
	・製作		★トラブルが起きた時は、自分達で解決していけるようにし、必要に応じて仲立ちをする。	
	・踊り		☆きれいになって気持ちいいことを共感する。	
	・恐竜ごっこ		☆それぞれが頑張っていた姿や工夫していたことを知らせることで、友達のよさに気付けるようにしていく。	
	・紙飛行機			
	・サッカー			
10:15	○片付け			
10:20	○話合い			
反省・評価			<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の興味関心を捉え必要感に応じた環境構成ができたか。</li> <li>・幼児が互いのよさに気付き認め合いながら遊びを進めることができていたか。</li> </ul>	

3 保育実践 K男の変容 ～友達っていいな～ □=幼児の姿, ◻=教師の援助

<p>〈4～5月〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二人兄弟の末っ子で、身の回りのことは、ほとんど母やお兄さんがやっている。家では、ゲームして遊ぶことが多かった。</li> <li>・園では、所持品の片付けすることに意識がなかった。</li> <li>・自分の思いをなかなか言葉で伝えられなかった。</li> <li>・部屋の隅で友達の遊びを傍観していることが多かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキンシップや好きな絵本を読んだりして安心して過ごせるようにする。また、好きな遊びが見つけれられるように素材や用具、場を整える。V-6 (1) ① V-5 (1) ①</li> <li>・所持品の片付けは、焦らずK男に合わせて行う。</li> </ul>
<p>〈6月〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達が、何をして遊んでいるのか見るようになった。V-1</li> <li>・友達の製作する姿に刺激され、自分で牛乳パックのヘビ作りを楽しむ。仕上がった作品が、教師やD男に認められ、D男や他の幼児に作り方を教える様子が見られた。そのことをきっかけにD男とかかわりをもつようになった。</li> <li>・身の周りの所持品を自分で片付けようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師もK男の遊びに加わり楽しさを共感し充実感が味わえるようにする。K男の遊びに興味を持つD男。K男とかかわりが持てるようにする。V-6- (1) ④②</li> <li>・K男には、D男に教えることで自信を持たせるようにする。また、K男のよさを認め、作品を飾り、K男のよさを学級の友達に知らせる。V-6- (3) ① V-6- (4) ②</li> </ul>
<p>〈7～9月〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級の集まりに自分から参加するようになった。</li> <li>・ブランコに興味を持つ。順番を守って乗ることができず、友達に注意されることがあったが、次第に順番を守って乗るように</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で身の回りの片付けをする姿や集まりに自分から参加できたことを認める。</li> <li>・気持ちよく友達と遊ぶためには、ルールがあり、守らないといけないことを感じさせる。V-6- (1) ③</li> </ul>
<p>〈10～12月〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランコが乗れたことが自信になり、登り棒に挑戦した。</li> <li>・周りにいる友達がK男の姿を見て、「頑張れ」と応援したりR男、D男がK男の体を支えたりする。登れるようになったことをみんなで喜ぶ。K男は、R男やD男の優しい気持ちを感じお礼をいった。V-1</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランコが乗れるよう援助し励ます。</li> <li>・ブランコが練習して乗れるようになったことを認め、学級でも知らせる。V-6- (3) ①</li> <li>・登り方を一緒に考えたり体を支えたりして登りたい気持ちに寄り添う。V-6- (4) ①</li> </ul>
<p>〈10～12月〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤクルトの容器で、双眼鏡を作り友達から「おまえ天才」と認められた。また、自分の気持ちを友達に分かるように話すようになってきた。V-3</li> <li>・こまを作る友達に、自分から声をかけこま作りを楽しむ。そして、友達のアイデアで手作りこまを使っの遊びが楽しくなり「すごいな、面白いな」と友達を認め喜ぶ姿が見られた。V-2</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・K男のアイデアを認め学級みんなに伝えることで自信を持たせる。V-6- (4) ②</li> <li>・「みんなの考えで楽しくなったね」と友達の工夫で遊びが楽しくなったことに気付かせる。V-6- (3) ④</li> </ul>
<p>考察</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○K男が安心して過ごせるようにスキンシップしたり絵本を読んだりして、好きな遊びが見つけれられるように素材や用具を整えておくことで興味をもった遊びにじっくり取り組むようになったと考えられる (V-1)。</li> <li>○K男の作った作品がD男や教師に認められることで、意欲的に行動するようになったと考えられる。</li> <li>○登り棒では、日頃から仲がよく思いやりを持てる関係のR男やD男が、一生懸命練習するK男の姿に心動かされ、力をかすようになったと考えられる。そして、K男が登れるようになったことを喜び合って、互いに充実感を味わっている。K男も友達の優しい気持ちに気付き友達がいたから登れるようになったと感じている姿から、互いに認め合う仲間の姿として捉えることができると考えられる (V-4)。また、K男自身が安定し、生活の中で自立して遊びを見つけ充実感を味わったことが、友達のよさに気付き認め合うことができるようになったと考えられる。</li> <li>○自分が認められる体験を重ねることで、更に自信を持ち友達とも積極的にかかわるようになった。こま作りでは、友達のアイデアで遊びがより楽しくなったことを体験し、友達と一緒に遊ぶことは、楽しいと思うようになってきたと考えられる (V-2)。</li> </ul>

## Ⅶ 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

- (1) 遊んでいる時や帰りの会等で、幼児のよさを伝える教師の援助は、その幼児の自己肯定感が育ち自信を持って行動でき、話を聞いていた幼児は友達のよさに気づき、そのアイデアや工夫を取り入れて遊びを深めていくことができるようになるための有効な手段である（Ⅵ-1）（Ⅵ-2）（Ⅵ-3）。
- (2) 幼児同士が工夫している姿が見れるようにテーブルを用意したり友達の遊びが感じられるように場所を移動したりして環境を再構成することは、互いのよさに気付くための有効な手段である（Ⅵ-1）（Ⅵ-2）。
- (3) 教師が、幼児の遊びの深まりを見ながらタイミングを図りながら思考させていく言葉掛けをすることは、アイデアや工夫が生まれ、それを生かすことで友達と遊ぶことが楽しいと感じ、互いのよさに気づき認め合えるようになるための有効な手段である（Ⅵ-2）。
- (4) 幼児がイメージする遊びがなかなか実現できない時に友達に教えてもらえるように橋渡ししていく援助は、達成した喜びから遊びが充実し、さらに友達への憧れや友達のよさに気付くための有効な手段である（Ⅵ-1）（Ⅵ-2）（Ⅵ-3）。
- (5) 幼児のありのままの姿を受け止めて、共感したり見守ったり認めてあげるなど、じっくりかかわっていくことは、幼児に自己肯定感を持たせ他児を肯定的に捉えるようになることから、互いに認め合う仲間づくりにつながる有効な手立てである（Ⅵ-2）。
- (6) 幼稚園教育は、総合的な教育で、互いのよさに気づき認め合う関係は、園生活すべてのところでみられるので、教師が小さなことでも取り上げ、認めていくことが大切であると考え（Ⅵ-3-(5)）。

### 2 研究の課題

- (1) 幼児が、他の幼児のよさに気付くためには、幼児自身の安心感と生活の自立がベースになるので時期に応じた発達ができるよう一年を見通した環境構成と援助の工夫を行う。
- (2) 幼児一人一人のよさや可能性を見出すために他の教師との連携や家庭との連携を図る。

#### 〈主な参考文献〉

文部科学省	『幼稚園教育要領解説』	フレーベル館	2008年
無藤隆・柴崎正行著	『幼稚園教育要領・保育指針のすべて 別冊 [発達]』		
		ミネルヴァ書房	2009年
金田利子・齋藤政子	『保育内容・人間関係』	同文書院	2012年
濱名浩	『保育内容・人間関係』	(株)みらい	2012年